

## 6学年の実践記録

### (1) 主題に迫るための具体的な手立て

[手立て1]

- ・今まで学習してきた生活科や総合的な学習の時間の振り返りを行い、自分たちの生活の場である「大蔵のまち」について今まで学習してきた集大成として発信していくという目的意識をもたせるようにする。
- ・国語科との関連を図り、「大蔵のまちの魅力」を伝えるためには、進める事物についてよく知っていることや相手の要求や条件に合うもの（相手もよいと思う事）であるかをよく考えるようにする。
- ・社会科の「2つの戦争と日本・アジア」の学習では、過去の大蔵小学校記念誌を見たり、昔の大蔵のまちの写真と比べたりすることで、大蔵のまちの魅力がどのように維持・形成されてきたかについて興味・関心をもち、「大蔵のまちの歴史」を調べたい課題を見つけることにつなげていくようにする。

[手立て2]

- ・大蔵の歴史や郷土に関して詳しい地域の方から話を聞いたり、もっと知りたいことや解決できていないこと、大蔵のまちの歴史を通しての大蔵のまちに対する思いや願い（愛着心・郷土愛）などを昔から地域に住んでいる方に尋ねたりする機会を設ける。そのことにより、地域の方の存在の大きさと、課題を乗り越えてきたことの素晴らしさを感じるとともに、現在の大蔵のまちの課題とつながっていることに気付くようにする。
- ・中間発表会の場を設定し、隣のクラスと課題別のグループごとに交流を行うことで、情報の交換や共有など調べ学習の中での教え合いができるようにする。

[手立て3]

- ・「現在の大蔵の魅力マップ」や「大蔵の昔新聞」から、受け継いでいくべき「魅力」を残し、変えていくべき「課題」を解決した理想の大蔵のまちの「未来」をイメージさせるために、「大蔵のまちの未来予想図」を絵や文で表現させると共に、自分の考えや思いとしての「理想」を明確にさせる。
- ・実際に行動を起こしていく活動に取り組もうという課題意識をもたせる。
- ・自分たちの計画実施したことの成果について地域の方に評価していただくことで、自信や自己肯定感と共に、地域に住み形成する一員として、これからの大蔵のまちづくりへ参画するための一歩となるようにする
- ・単元のまとめの段階では、個人ファイルや作品等でこれまでの学習をふり返ったり、学習を通して学んだことをカードにまとめ、これまでに書いた自分のカードの内容と比較したり、大蔵のまちに対する自分の見方や考え方の広がりや深まり、思いなどの変容や自分の成長を実感できるようにするとともに、地域の一員として、今後の地域とのかかわり方について考えることができるようにする。

### (2) 研究の実際と考察

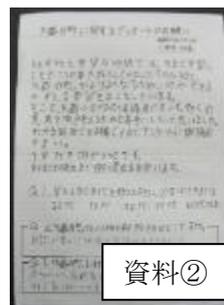
[手立て1]

3年生から5年生まで学習したことをふり返り、自分たちが住んでいる大蔵のまちの素晴らしさを地域に発信していくために、「大蔵のまち」に関するウェビングを行い、小学校6年生の自分たちの大蔵のまちに対する思いを再確認した。(資料①)

自分たちだけでなく、大蔵のまちに住んでいる地域の方々は、「大蔵のまち」にどのような思いや願いを持っているかを知るために、「大蔵のまちアンケート」を計画・実施した。(資料②) 地域の方が一堂に集まる、2学期の「大蔵川クリーン作戦」に合わせてアンケートを実施したが、当日の天候が悪く、予想を大幅に下回る枚数の回収にとどまった。(30～40代の保護者20枚程度) もっと幅広い年代の方からの意見を聞く方が、たくさんの方の思いを知ることができるという意見が子どもたちの話し合いの中から出てきたので、同アンケ



ートを「年長者の里」「サンキョードラッグ」「ミニストップ」「市民センター」に1週間設置させていただいた。(資料③) その結果、10～70代の地域の方から、100枚以上を回収することができた。そのアンケートを集計し、現在大蔵に住んでいる方々がどのような思いや願を持っているか、付箋紙(ピンク=大蔵のまちの良い所、黄色=大蔵のまちに対する願い)を用いて整理・分析を行った。(資料④、⑤) それをもとにして作成した「大蔵のまち魅力マップ」から、「現在の大蔵のまちにはたくさんの魅力があるが、それらは昔からずっとあったのか」という疑問が出てきた。そこで、「未来の大蔵のまちを考えるためには、大蔵の昔の様子を調べよう」という学習問題を設定した。また、その際に映画館があった当時の大蔵のまちの写真を提示することで、子どもたちの中から「映画館のあるまちって大きくない?」や「昔はもっとにぎわっていたのではないか」などの意見が出てきた。これをもとに、「昔の大蔵のまちの様子をもっと調べてみよう」という意識づけを行った。



〔手立て2〕

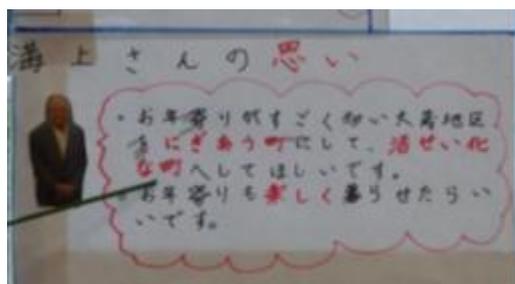
大蔵のまちの過去の様子を調べる際には、「自然(大蔵川)、神社、施設、人(人口や人の取り組み)、交通、大蔵小学校」の6つの課題別で、それぞれインターネットを使って一人調べと、それをもとにグループ内で交流し合い、整理してまとめた。それでも残った疑問は、昔から大蔵のまちに住んでいる方にGTとして来ていただき、子どもたちが整理した課題別に分かれて、当時の大蔵のまちの様子や、住んでいた人々の思いを話していただいた。(資料⑥) 話をしていただいたことで、より分かったことや思ったこと等は、課題別グループ内で交流し合い、まとめた。



資料⑥

その後、課題別グループで調べたり話を聞いたりしたことを「壁新聞」の形式でまとめた。その際、国語科で学習した言語活用の力を生かしながら表現したり、当時大蔵に住んでいた人々の「思い」と大蔵のよさを関連付けたりできるように、それぞれのグループに応じた指導や支援を行った。

また、中間発表会で調べたことを発表し合う場面では、1組と2組で交流して行った。その際、ただまとめたことを発表するだけではなく、当時の方の「思い」に気付かせ、互いの考えが深まるように支援した。(資料⑦)



資料⑦

〔手立て3〕

「現在の大蔵の魅力マップ」や「大蔵の昔新聞」から、受け継いでいくべき「魅力」を残し、変えていくべき「課題」を解決した理想の大蔵のまちの「未来」をイメージさせるために、「大蔵のまちの未来予想図」を絵や文で表現させ、実際に行動を起こしていく活動に取り組もうという課題意識をもたせた。(資料⑧) 絵は、イメージを膨らませ実現に向けての取り組みを具体的に考えていくうえで有効であった。しかし、絵を描くことが苦手な児童にとっては、初めの段階でつまづく原因となった。

未来予想図を絵で表す。

未来予想図を言葉で表す。

資料⑧

自分たちの計画したことについて小集団グループで話し合った。その際、地域の方も一緒に話し合いに参加してもらい評価していただいた。(資料⑨)

確かに、子どもたちからあいさつなど声をかけられると、地域の人のはうれしいですね。また、子どもたちが元気だと、私たちも元気になります。

「人に優しいまち」を目指すには…

- ・いじめをしない
- ・まちの人にあいさつをする
- ・お年寄りのお手伝いをする
- ・お世話になっている人に恩返し

こんな活動ができないかな？

自分たちの意見に対するアドバイスを頂くことで、自信や自己肯定感と共に地域に住む一員として、これからの大蔵のまちづくりへ参画しようとする意欲につながった。

単元のまとめの段階では、個人ファイルや作品等でこれまでの学習をふり返ったり、学習を通して学んだことをカードにまとめ、これまでに書いた自分のカードの内容と比較したり、大蔵のまちに対する自分の見方や考え方の広がりや深まり、思いなどの変容や自分の成長を実感できるようにするとともに、地域の一員として、今後の地域とのかかわり方について考えることができるようにする。

### (3) 成果と課題

#### 〔成果〕

- 国語科との関連から、自分たちの進める「大蔵のまちの魅力」が相手の要求や条件、思いに合っているのかという視点で見直し、アンケート調査という客観的な資料を用いて整理分析することができた。その際、魅力だけでなく願いや希望についても調べた。このことは児童が気付かなかった大蔵のまちの魅力やよさに気付くと共に地域の方がこれまで大切にしてきた思いや願いに共感したり、尊敬や憧れの気持ちを持ったりこれからの大蔵のまちを児童に託したいという気持ちを感じ取ったりすることにつながった。また、地域の一員として、今の自分や将来の自分にできることを考えるという地域への愛着の気持ちを育てることができた。
- 昔の大蔵のまちの写真と今の様子を比較することで、大蔵のまちの歴史に興味や関心を持ち、変わったことや変わらないことなど調べたい課題を明確にすることができた。また、テーマごとに調べたことを交流し、協同的な学びのよさを味わうことができた。地域の方（G T）が写真ではわからないまちの様子や当時の人々の思いや願いなど聞かせてくれた。
- 自分たちの思い描く未来予想図から、自分たちにできることを考え、互いの考えを交流する場や地域の方にアドバイスを頂く場を設けることで、まちづくりに地域の一員として参加した満足感や成就感を味わい、大蔵のまちに対する見方や考え方を深めたり、自分の行動を価値づけたりすることができた。

#### 〔課題〕

- 過去の大蔵のまちの様子を調べる際に、子どもたちが調べたい内容と資料やG T伝えたいことの内容にずれがある。最後まで自分たちの力で調べるには限界があるため、課題の持たせ方を工夫する必要がある。
- 未来のまちづくりを考え、実現に向けて自分たちができることを計画実行する際に、実現可能な活動計画を立てさせるための手立てが必要であった。より具体的な評価基準をたてて、ねらいに近づくためのワークシートの工夫や支援などきめ細かく行う必要がある。
- 今まで学習してきたことの集大成としての活動として、70時間意欲を持続させていくためにねらいや評価基準をふまえたきめ細かい計画的な支援の在り方を工夫していく必要がある。
- 総合的な学習の時間で使えるように、各教科で各自に活用できるための力を身に付ける必要がある。